

2014年1月期5月度 月次業績動向 (2013年4月21日～2013年5月20日)
会社名 ピープル株式会社

(http://www.people-kk.co.jp/)

代表者名 取締役兼代表執行役 桐淵千鶴子

上場取引所: 大 TEL: 03-3862-2768

コード: 7865 問い合わせ先 IR担当 飛田留美子

(単位: 千円)

科目	《月次の対比》			《期初からの累積の対比》			《過去12ヶ月累積の対比》		
	2013年1月期 5月度	2014年1月期 5月度	前年 同月比	12/1/21～ 12/5/20	13/1/21～ 13/5/20	前年 同期間比	11/5/21～ 12/5/20	12/5/21～ 13/5/20	前年 同期間比
売上高	158,358	224,617	141.8%	789,876	893,100	113.1%	2,793,940	2,954,710	105.8%
営業利益	△9,516	△14,652	N/A	7,741	△45,166	N/A	209,101	102,126	48.8%
経常利益	△8,585	16,584	N/A	9,608	33,720	351.0%	211,323	184,472	87.3%
税引前利益	△8,585	16,584	N/A	9,602	33,720	351.2%	211,259	184,469	87.3%
流動資産	1,870,733	1,936,002	103.5%	【2014年1月期第2四半期 業績予想】 (2013年6月3日発表) 【第2四半期会計期間(2013/4/21～2013/7/20) 予想】 ・売上高6億89百万円 (前年同期間比16.8%増) ・営業損失34百万円 (前年同期間＝営業損失25百万円) ・経常損失23百万円 (前年同期間＝経常損失25百万円) 【第2四半期累計期間(2013/1/21～2013/7/20) 予想】 ・売上高13億58百万円 (前年同期間比11.1%増) ・営業損失65百万円 (前年同期間＝営業損失8百万円) ・経常損失6百万円 (前年同期間＝経常損失7百万円)					
固定資産	167,834	160,292	95.5%						
流動負債	264,183	289,569	109.6%						
固定負債	50,000	50,000	100.0%						
純資産	1,724,384	1,756,725	101.9%						
総資産	2,038,567	2,096,294	102.8%						

商品別売上高

商品カテゴリー名	2013年1月期 5月度	2014年1月期 5月度	当月 構成比	12/1/21～ 12/5/20	13/1/21～ 13/5/20	当期間 構成比	11/5/21～ 12/5/20	12/5/21～ 13/5/20	当期間 構成比
乳児・知育玩具	35,393	66,252	29.5%	240,792	295,202	33.1%	1,036,329	1,146,711	38.8%
女兒玩具	27,277	27,404	12.2%	168,587	157,097	17.6%	730,743	612,740	20.7%
遊具・乗り物	42,437	50,054	22.3%	239,039	190,190	21.3%	677,757	575,082	19.5%
その他	53,250	80,907	36.0%	141,455	250,611	28.0%	349,109	620,177	21.0%
合計	158,358	224,617	100.0%	789,876	893,100	100.0%	2,793,940	2,954,710	100.0%

5月度新発売商品

当月新発売した商品はありません。

国内販売が縮小した前月4月度から一転、当5月度ではゴールデンウィーク後の補充注文が跳ね返り、総売上高は、2億2500万円、前年同月対比41.8%増まで伸び上がりました。

玩具市場は3月以降、ゴールデンウィークを挟んでも極めて厳しい状況が続いていると業界誌で報道されていますが、当社では商戦前の積み込みが消極的だったこともあり、市場在庫が良く回転した分、ほぼ全カテゴリー前年実績を越えて補充出荷され、当月の玩具部門売上増につながりました。特に定番品の動きが良好で、女兒玩具では定番人形「よちよちぼちゃん」「ちいぼちゃん」、知育玩具では「やりたい放題ビッグ版」等の補充注文が売上を下支えし、同知育カテゴリーでは前年同月に無い当期新製品「頭と体の熱中知育ボックス」「ごきげん熱中チェア」等の好調が加算され、カテゴリー売上を引き上げました。

自転車では、大手量販店のまとまった仕入れタイミングが当5月度に遅れながら出荷調整され、「いきなり自転車シリーズ」の新色好調が当月単月の出荷ベースに現れました。

海外販売は当月においても継続的に売上を伸ばしています。

売上高は増収の一方、当5月度の為替変動は著しく円安に進行したことで損益に影響しました。時価評価方式に基づいた原価上昇により当月営業利益は損失となり、営業外損益においては米ドル先物予約分の時価評価益が計上され、経常利益、税引前利益に反映されております。このように、時価評価方式により、四半期決算で調整されるまで為替の時価評価は、月次で増減しながら計上されていきます。